

県の新しいイチゴ「愛きらり®」の生産現場における状況

～農業経営としての品種導入のメリット～

伊藤 広孝（西三河農林水産事務所農業改良普及課岡崎駐在室）

【2025 年 1 月掲載】

【要約】

愛知県いちご新品種ブランド化推進協議会が 2022 年からブランド化を進めている「愛きらり®」は、早生性で外観や食味が優れている等の特性がある。

これまでの現地適応性試験や拡大展示試験において、慣行品種と比較調査したところ、収益面や労働面では大きなメリットがある反面、病虫害管理や肥培管理等の栽培上注意が必要な点が明らかになった。

1 はじめに

JA あいち三河岡崎市いちご部会及び幸田町いちご組合は、短日夜冷処理による超促成作型が主流の県内有数のイチゴ産地であり、品種は「紅ほっぺ」、「とちおとめ」を栽培している。

管内において「愛きらり®」は、2018 年度に開始した現地適応性試験以降、試験栽培を続けてきた。今回、生産現場における品種導入のメリットや栽培特性、課題等が明らかになってきたため紹介する。



高設栽培での栽培の様子（2022/2/3 撮影）
左：愛きらり®、右：紅ほっぺ

2 生産現場の状況と見えてきた特性

(1) 岡崎市いちご部会・幸田町いちご組合の作付け状況

2023 年度作イチゴの作付は 73 名・1,681a で、そのうち「愛きらり®」は 13 名・75a を占めた。なお、2024 年度作の「愛きらり®」は、13 名・173a と拡大傾向である。

(2) 連続出蕾性があり、収量も同等以上と多い

産地平均単収を品種別に見ると、「愛きらり®」が慣行品種よりも多くなった（図 1）。特に、第一次腋果房が連続出蕾したことから、2 月までの収量が多くなった。

(3) 単価、秀品率、大玉率がいずれも高い

産地平均単価が、「愛きらり®」は業務需要が高まる 12 月を除き慣行品種よりも高く推移した（表 1）。さらにシーズンを通して、秀品率は 8 割以上、大玉率は 5 割以上を維持しており、果実が大きく果形の揃いが良いという果実特性が出荷実績にも現れていた。

(4) 出荷調整（パック詰め）の省力化につながる

「愛きらり®」は、シーズン通しての出荷の山谷が生じにくく、秀品率や大玉率の高いことから、出荷調整に要する労働時間は慣行品種より 3 割以上削減される。

(5) 栽培における注意点

これまでの試験結果から、栽培上注意する点がいくつか見られた。

- ・草姿が開き気味で葉が波打つ等の特徴から、薬剤散布むらが生じやすく、ハダニ類や炭疽病、灰色かび病対策として丁寧な防除が必要。特にハダニ類については、定植前

の炭酸ガスくん蒸処理や天敵利用を推奨。

- 肥料やかん水の要求量が多く、育苗においては液肥に加えて置肥による肥培管理を推奨、本ぼにおいては肥料やかん水量の増加を推奨。
- 日照の少ない厳寒期に着果負担が大きくなり、草勢の低下や展開の遅れ、果実の着色や食味の不安定化につながるため、高めの温度管理、控えめな摘葉管理、電照の利用を推奨。

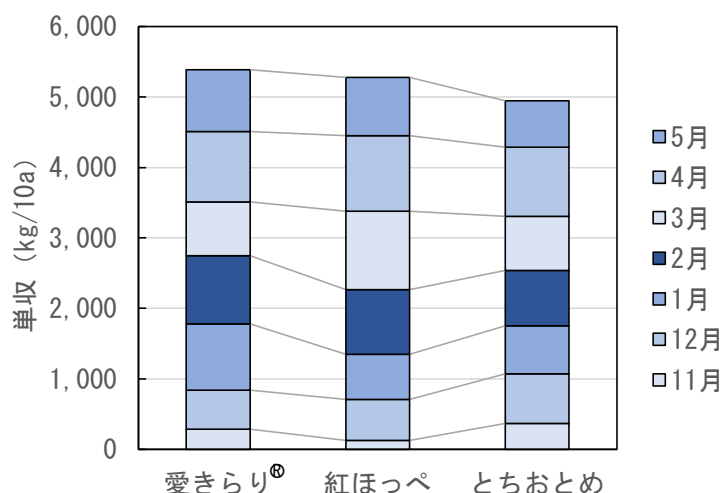


図1 品種別単収の比較 (2023 年度作)

表1 単価、秀品率、大玉率の比較 (2023 年度作)

品種	項目	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	計
紅ほっぺ	単価 (円/kg)	2,652	2,488	1,609	1,542	1,467	1,137	941	1,489
	秀品率 (%)	91.5	90.2	84.6	78.6	75.3	70.3	69.5	77.1
	大玉率 (%) *	82.5	69.8	69.2	67.8	59.7	51.0	43.9	59.7
愛きらり®	単価 (円/kg)	<u>2,832</u>	2,475	<u>1,679</u>	<u>1,680</u>	<u>1,664</u>	<u>1,301</u>	<u>1,132</u>	<u>1,664</u>
	秀品率 (%)	<u>92.1</u>	<u>90.4</u>	82.1	<u>89.5</u>	<u>86.7</u>	<u>90.9</u>	<u>89.5</u>	<u>88.4</u>
	大玉率 (%) *	<u>95.2</u>	<u>89.5</u>	<u>82.4</u>	<u>71.4</u>	<u>63.5</u>	<u>56.7</u>	<u>55.4</u>	<u>70.8</u>
とちおとめ	単価 (円/kg)	2,707	<u>2,594</u>	1,485	1,515	1,474	1,135	987	1,605
	秀品率 (%)	47.5	43.9	44.2	49.5	50.5	59.0	62.5	51.9
	大玉率 (%) *	47.9	50.6	56.1	49.5	48.6	40.0	35.3	46.6

* 大玉率は3L (17g/玉) 規格以上の発生率

※ 数値の下線は、各月において最も高い値に付与

3 導入による経営への効果

以上のことから、「愛きらり®」は慣行品種と比べ、栽培管理は“くせ”がありやや難しいが、収益面や労働面では大きなメリットがあることが明らかとなった。以下のような経営モデルに導入することで、農業経営及び産地の発展に貢献できると思われる。

- ① ベテランの小規模経営体の経営の維持 (家族経営・15a 以下・全面作付)
- ② 大規模経営の作型分散による経営高度化 (企業的経営・40a 以上・一部作付)